

## 道徳科における教育方法の授業開発

～主体的・対話的で深い学びを活用した協同的な学習～

馬場 肇子 ・ 江藤 智佐子

(久留米大学 非常勤講師) (久留米大学 文学部)

[キーワード]主体的・対話的で深い学び、道徳科教育、教育方法、協同的な学び、  
カリキュラム・マネジメント

### 1.問題の所在と背景

児童・生徒を取り巻く環境の中でとりわけいじめ問題に関する増加が注目されている。これには2つの解釈が考えられる。いじめそのものが増加傾向にあるのか、それとも統計的な集計内容に変化が生じてのことなのか。後者の見解について、文部科学省(2015)「平成26年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」の一部見直しについて(依頼)」(平成27年8月17日)において「いじめの認知に関する考え方」では、「(4)各学校においては、発生しているいじめを漏れなく認知した上で、その解消に向けて取り組むことが重要である。そのため、文部科学省としては、いじめの認知件数が多い学校について、『いじめを初期段階のものも含めて積極的に認知し、その解消に向けた取組のスタートラインに立っている』と極めて肯定的に評価する。」という見解を示している。いじめ問題に対し、文部科学省も認知に関する考え方を強化していることがうかがえる。直近のデータでは、文部科学省(2017)の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によれば、いじめの認知件数は約41万件(小・中・高等学校及び特別支援学校を含む)であり、児童生徒1,000人当たりのいじめの認知件数は30.9件と年々増加傾向にある。

また、子供を取り巻く地域や家庭の変化も見逃せない。東京都生活文化局(2015)の「平成26年度第6回インターネット都政モニターアンケート結果 家庭と地域で取り組む子供の健全育成」によると、「ながらスマホをしない」や「交通ルールを守る」などの項目で、子供よりも大人のほうがマナーを守っていない状況がうかがえる。子供を教育する立場の大人たちの規範が低下していることがこの調査結果からも明らかである。つまり、大人の規範意識の低下は、子供の教育への低下につながり、ひいては家庭の教育力の低下という現象を引き起こしているのではないだろうか。さらに、この調査では「電車内で高齢者や体の不自由な人に席を譲る」という項目でも大人は57.0%、子供は39.3%が「守っていない」と回答している。これは、大人として規範を示すべき親の方が電車内で高齢者や体の不自由な人に席を譲ろうとしない傾向を示していることが起因しているのではないかと考える。つまり、子供たちは親の道徳的とは言えない言

動に触れ、その親に教育されていることが問題ではないだろうか。このような高齢者や体の不自由な人に対する思いやりの欠如は、相手の気持ちや思いを推し量る共感力の低下につながるものと考えられる。そしてこの共感力の低下が「いじめ」問題の増加要因に影響しているのではないか。また、自分の言動に対する自己認識不足や相手がどうとらえるかという創造力の欠如は、共感力の低下とも関連している。

このような背景を受け、社会の秩序を守り、規範意識を定着させる取り組みの一つとして、道徳が特別の教科として2018年度から導入されることになった。道徳教育は教科として導入されたばかりではあるが、道徳を通して育む相手を思いやる気持ち、共感力が児童・生徒の心情に深く浸透していないことが教科化された要因の一つとも考えられる。

## 2.研究の目的

規範意識の醸成、共感力の向上のためには、どのような教育方法が有用だろうか。

本研究は、共感力を育むための道徳科の教育方法として協同的な学習に着目し、その授業方法を探究することが目的である。なぜなら、人間力などの態度・資質育成のためには、新たに教科化された道徳科に授業構築の可能性が見いだせるからである。さらに共感力を伸ばす教育方法として児童・生徒が主体的に考え、議論をする手法が道徳科においても有効だと考えるからである。そこで、本稿では「主体的・対話的で深い学び」が促進される協同的な学びを学習過程に位置づけた道徳科の授業実践事例を中心に検討したい。

## 3.授業実践の内容

### (1) 対象学校種と学年

本稿の授業実践の対象となる学校種は小学校とする。

対象学年は小学5年、6年とする。なぜなら、本授業プログラムは試行的な開発段階であるため、協同的な学習を理解するだけでなく、その学習過程の中で主体的・対話的で深い学びにつながる事が可能な学年と考えたからである。

### (2) カリキュラム・マネジメントと学習単元の設定

カリキュラム・マネジメントは、学校経営に大きく関与しているものである。その中で道徳教育は本来、カリキュラム・マネジメントを考える際、中心的な役割を担うものである。しかし、実際はカリキュラム・マネジメントの視点から効果的に道徳教育を位置づけることに多くの学校で苦慮しているという課題も存在している。

そこで、「主体的・対話的で深い学び」に向かう道徳科の実践事例として、ここでは3つの授業事例を取り上げることにする。

(授業事例1) 小学校第5学年対象。「自然の偉大さ」。教材：「一ふみ十年」

(授業事例2) 小学校第6学年対象、「自省する心：節度ある行動」。教材：「蜘蛛の糸」

(授業事例3) 小学校第6学年対象、「誠実・明朗」。教材：「手品師」。

### (3) 道徳科の指導案

① (授業事例1) 第5学年「自然の偉大さ」－「一ふみ十年」－

10年以上の年月で、10センチメートルほどの高さに成長する樹木「チングルマ」の存在を知り、その生命力のすばらしさを感じ、自然を大切にしようとする態度を育てることをねらい、教材として、吉藤一郎著(2011)「11 一ふみ十年」を使用し、協同的な学習としてフリートークを取り入れた。「一ふみ十年」の指導案は、図1に示すとおりである。

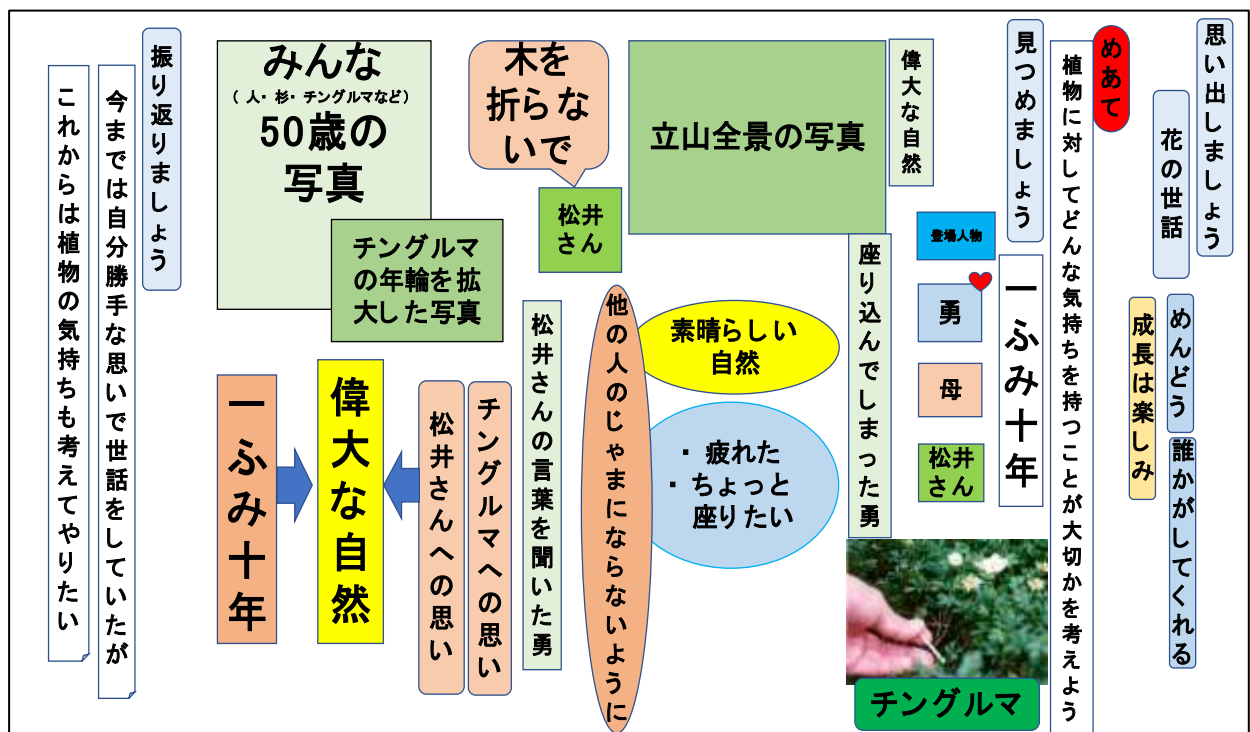
図1 「一ふみ十年」の指導案

第5学年 道徳学習指導略案		指導者 馬場 肇 子 印
主題名		自然の偉大さ 3-(1)
資料名		一ふみ十年
日時・場所		平成 29年 7月 日 (校時) 場所 5の1, 5の2
本時のねらい		○「チングルマ」という十年以上かかって成長するものの存在を知り、その生命力のすばらしさを感じ、自然を大切にしようとする態度を育てる。
学習の展開		配慮事項
前時	1 資料「一ふみ十年」を読む。 2 ビデオ「立山の全景」をみる。 3 学習ノートの「思い出しましょう」の欄に、一人一鉢で植えたサルビアやマリゴールドを世話しているときの気持ちを書く。	○ 読書タイムや宿題等で4回以上読ませておく。 ○ 立山の地理や自然を視覚を通して実感させておく。 ○ 毎日世話しているか、言われたからしているのか、味かせた経験、枯らした経験等自由に書かせておく。 ○ 資料を読んで、似たような経験があればそれも書かせておく。
であう	1 自分の植物への関わり方を振り返る。 ○サルビアやマリゴールドの世話 ・めんどろ、言われるから ・大きくなって欲しい 2 学習のめあてをつかむ。 めあて 植物に対して、どんな気持ちを持つことが大切かを考えよう。	○ 私欲の気持ちと愛他や忠実の心に分けて、赤い気持ちと青い気持ちが人間にはあることを知らせ、めあてにつなぐ。 ○ 「植物に対する心」を資料「一ふみ十年」で見つめていくことをおさえる。
つくる	3 資料「一ふみ十年」の主人公勇の気持ちを考える。 ○ビデオ「立山の全景」(2分間)をみて、あらすじをつかむ。 (1) 雄大な自然を前にして、勇が草むらに座り込んだときの気持ちを考える。 ・立山の自然のすばらしさ [忠実] ・他の観光客のいざ知らずに [愛他] ・つかれたなあ、ちょっとぐらい [私欲]                      ○ この場面から、松井さんに出会い、立山自然保護センター、むしろの話聞くまでのあらすじをつかむ。 (2) 松井さんの話を聞いているときの勇の気持ちを考える。 ・チングルマへの思い [愛他] ・松井さんへの思い [愛他] ・一ふみ十年 [忠実] ・自然への関わり ・どの植物も大切に	○ 登場人物「勇」「舟」「松井さん」を確認し、「勇」に寄り添って考えていくことを抑える。 ○ ビデオ「立山の全景」で途中の駅から室堂までの2分間のビデオで、あらすじと立山の自然を確認させる。 ○ 学習ノートに書かせ、机間巡視しながら児童の書いていることを観点別に意味づけし、整理しておく。 ○ 考えを交流(①異性、②同性、③異性とフリートーク)する場を設定し、考えが広がったり、深めたりしたことを、青鉛筆で書かせる。 ○ フリートークでは、自分たちで発表をつなぐことができるようにしておく。 ○ 発表を忠実、私欲、愛他で分類しながら聞く。 ○ 児童の発表ででなかった時は、意図的指名をする。 ○ 松井さんの写真、チングルマとマッチ棒の写真、「みんなら〇才」の写真等を提示しながら、あらすじを教師の話で追う。 ○ チングルマの年輪の資料は、一人ずつ準備しておき、実際に年輪を教えさせる。 ○ 松井さんの「一ふみ十年」の話を、富山ナチュラリスト協会の板橋さんに吹き込んで頂いたテープで聞かせる。 ○ 学習ノートに書かせ、机間巡視しながら児童の書いていることを観点別に意味づけし、整理しておく。 ○ 児童の発表を、愛他、忠実、価値に分類してまとめる。 ○ 「知っていたら座らなかつたらう。」という考えに、「知らなかつたら、座っても良いのだろうか?」と切り返し、価値把握へつなぐ。 ○ 価値把握したことをもとに、児童の言葉に置き換えてまとめる。
高める	4 本時学習のまとめをする。 まとめ 植物の思いを感じ取り、大切にしようという気持ちを大切にしよう	
生かす	5 自分の生活を振り返る。 これまでの自分は、自分の都合で世話をしていたが、これからは、サルビアやマリゴールドの気持ちを考えてやりたい。	○ 今日学習した価値からもう一度自分を見直し、どんな気持ちを持ちたいかを書かせる。

この教材は、自然の一つである立山の雄大さに感動する主人公（勇）が、足下の雑草とも見える樹木「チングルマ」の上に座ってしまい自然を壊す行動を取ってしまうという話である。ここでは、雄大な立山に感動する主人公にも、疲れて樹木「チングルマ」の上に座り込んでしまう主人公にも理由があり、異なる立場での共感力を問う教材となっている。

フリートークは、主人公の行動について、座るか座らないかという相反する行動について、それぞれの立場にたって考えるディベート形式を用いた。対話によつての気づきのねらいは、立山の中腹までの登山で疲れているとき、ふと見上げた立山の雄大さに圧倒され、ふらついても、足下の雑草であろうと自然の一部である植物を大事にするという相手を思いやる気持ち、自然を大切にすることを優先する心情を育成することである。この授業で用いた板書（案）は、図2に示すとおりである。

図2 「一ふみ十年」の板書（案）



(出所) 吉藤一郎 / 絵・竹下徳継 (2011) をもとに筆者作成。

② (授業事例2) 第6学年「自省する心：節度ある行動」－「蜘蛛の糸」－

「自省する心：節度ある行動」で使用する教材は、芥川龍之介著「蜘蛛の糸」である。この話は、地獄に落とされたガンダタが自分だけが助かることを優先した行動をとってしまうという話である。自己中心的な気持ちは誰にでもあり、そのような言動をとると、自分にとっても悪い結果を招くという道徳心を育むために適した教材である。この教材を使って、自分の中にある自己中心的な気持ちを各自が確認したうえで、他者のことも考えていくことが大事であるということ、自省という手法を用いながら心と態度を育成することをねらいとしている。「蜘蛛の糸」を教材とした指導案は、図3に示すとおりである。

図3 「蜘蛛の糸」の指導案

<b>第6学年 道徳学習指導路案</b>		指導者 馬場 肇 子 印									
主題名	自省する心 1-(1) 節度ある行動										
資料名	蜘蛛の糸 (作: 芥川龍之介) (偕成社)	配時	1 / 1 時								
日時・場所	平成25年6月5日(水)3校時(10:25~11:10) 平成25年6月6日(木)2校時(9:25~10:10) 平成25年6月6日(木)3校時(10:25~11:10)	場所	6年3組 6年1組 6年2組								
本時のねらい	○ 自分だけが助かることを優先した行動をとってしまったカンダタの気持ちに共感することを通して、みんなのことも考えていくことが大事であることをとらえ、自省する心を育てようとする態度を育てる。										
学習の展開											
時	学習活動・内容	配慮事項									
前時	1 資料「蜘蛛の糸」を読む。 2 学習ノートの「思い出しましょう」の欄に、自分の思いを優先させ、ついやってしまったことを思い出させ、そのときの気持ちを書く。	○ 読書タイムや宿題等で3回以上読ませておく。 ○ 自省について思い出させ、経験等自由に書かせておく。 ○ 資料を読んで、似たような経験があればそれも書かせておく。									
であう	1 自分の行動を振り返る。 ○ いつ、どこで、だれに、何と? ○ そのときの気持ち ・自分が楽しいから ・つい 2 学習のめあてをつかむ。 めあて 自分だけが…と思ったとき、どんな心をもつことが大切かを考えよう。	○ 自分と相手の心に分けて、その中でも赤い気持ちと青い気持ちがどの人間にもあることを知らせ、めあてにつなぐ。									
つくる	3 資料「蜘蛛の糸」の主人公カンダタの気持ちを考える。 (1) くもの糸がたれているのを見たときのカンダタの気持ちを考える。 <table border="1" style="display: inline-table; margin: 5px;"> <tr> <td style="text-align: center;">自分</td> <td style="text-align: center;">相手</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分だけ</li> <li>・僕に向かって</li> <li>・よいことをやった</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くもが恩返し</li> <li>・みんなはいいことをしていない</li> <li>・一人なら</li> </ul> </td> </tr> </table>  ○ この場面から、くもの糸が切れ、落ちていくまでのあらすじをつかむ。 (2) 落ちていくときのカンダタの気持ちを考える。 <table border="1" style="display: inline-table; margin: 5px;"> <tr> <td style="text-align: center;">自分</td> <td style="text-align: center;">相手</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分だけ思ったから</li> <li>・自分のことしか</li> <li>・もう、誰にもいいない</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・せっかく、くもが</li> <li>・後の悪人たちにも申し罪ない</li> <li>・くももあきれてるだろう</li> </ul> </td> </tr> </table> ↓ 自分も、みんなもスマイルになるように考えることが大事	自分	相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分だけ</li> <li>・僕に向かって</li> <li>・よいことをやった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くもが恩返し</li> <li>・みんなはいいことをしていない</li> <li>・一人なら</li> </ul>	自分	相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分だけ思ったから</li> <li>・自分のことしか</li> <li>・もう、誰にもいいない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・せっかく、くもが</li> <li>・後の悪人たちにも申し罪ない</li> <li>・くももあきれてるだろう</li> </ul>	○ 登場人物「カンダタ」「おしゃか様」「たくさんの罪人」を確認し、「カンダタ」に寄り添って考えていくことを抑える。 ○ 板書を手がかりに、教師による朗読であらすじを追う。 ○ 学習ノートに書かせ、机間巡視しながら児童の書いていることを観点別に意味づけし、整理しておく。 ○ 考えを交流(①異性、②同性、③異性とでのフリートーク)する場を設定し、考えを深めたり、広げたりさせる。 ○ 児童には、自分たちで発表をつなぐことを指導しながら考えを深めさせる。 ○ 発表を自分、相手で分類しながら聞く。 ○ 児童の発表ででなかった時は、意図的指名をする。 ○ 板書を手がかりに、朗読であらすじを追う。 ○ 学習ノートに書かせ、机間巡視しながら児童の書いていることを観点別に意味づけし、整理しておく。 ○ 児童の発表を、相手、自分、価値に分類してまとめる。 ○ 自分が助かりたいことは分かるが、欲を出すすべてを失うことを押さえながら、価値把握へつなぐ。	
自分	相手										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分だけ</li> <li>・僕に向かって</li> <li>・よいことをやった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くもが恩返し</li> <li>・みんなはいいことをしていない</li> <li>・一人なら</li> </ul>										
自分	相手										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分だけ思ったから</li> <li>・自分のことしか</li> <li>・もう、誰にもいいない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・せっかく、くもが</li> <li>・後の悪人たちにも申し罪ない</li> <li>・くももあきれてるだろう</li> </ul>										
高める	4 本時学習のまとめをする。 まとめ 自分も、みんなもスマイルになるように考えて行動しようとするのが大事 5 自分の生活を振り返る。 これまでの自分はつい自分だけとっていたけど、これからは、相手も自分もすっきりするように行動をしていきたい。 6 教師の説話を聞く。 ※ 南三陸町の防災センターで避難を呼びかけ続けた方の話	○ 価値把握したことをもとに、児童の言葉に置き換えてまとめる。 ○ 今日学習した価値からもう一度自分を見直し、どんな気持ちを持ちたいかを書かせる。									
生かす											

地獄に落とされたガンダタが、自分だけが助かることを優先した行動をとってしまう場面をとりあげ、その時の気持ちを主人公のガンダタになって考えさせ、その時の感情をまず学習ノートに書かせる。次に、それをもとにフリートークによって、他者との対話を通して人間の弱さを対話によって気づき、考えを深める学習を行う。最初に自己中心的な気持ちは誰にでもあることを確認し、自己中心的な気持ちに負けたり、周りの人々のことを考えない言動をとったりすると、自分にとっても悪い結果を招くことを、蜘蛛の糸が切れるという物語の場面と重ね合わせながら考えさせる。「蜘蛛の糸」が切れて落ちていくガンダタの気持ちはどのような気持ちだったのか、「自由と責任」についても主体的に議論ができる第6学年だからこそ、対話によって考えを深めることができる学習である。「蜘蛛の糸」が切れるという場面は、ガンダタの自己中心的な気持ちがよく表れている場面である。お釈迦様が下ろしてくださった蜘蛛の糸を見た時のガンダタの気持ちを中心に考えさせた。授業方法にフリートークを仕組むことで、自分だけが助かりたいと思う自己中心的な気持ちに自ら気づき、さらに主体的・対話的で深い学びにつながりという展開を行った。フリートークによって、気づきが促進されていくことを授業内での児童のフリートークの一例として示したのが、図4である。

図4 「蜘蛛の糸」のフリートークの一例

Aさん： <u>自分に向かって下りているから、僕だけのものだ。</u>
Bさん： <u>きっと、蜘蛛が恩返しをしてくれてるんだ。</u>
Aさん： <u>そうか、あのとき、クモを助けてやったことを、お釈迦様が覚えていてくれたんだ。</u>
Bさん： <u>そうだよね。他の人はそんなふうによいことを一つもしていないから、自分だけこっそり上ろう！</u>
Aさん： <u>でも、自分だけでいいのかな？</u>
Bさん： <u>みんなが来たら、あんなに細いクモの糸が切れてしまうよ。ここは、自分だけこっそりのぼろう。</u>
Aさん： <u>そうだね、ありがとう。</u>
Bさん： <u>ありがとう。</u>

注) 下線部筆者加筆

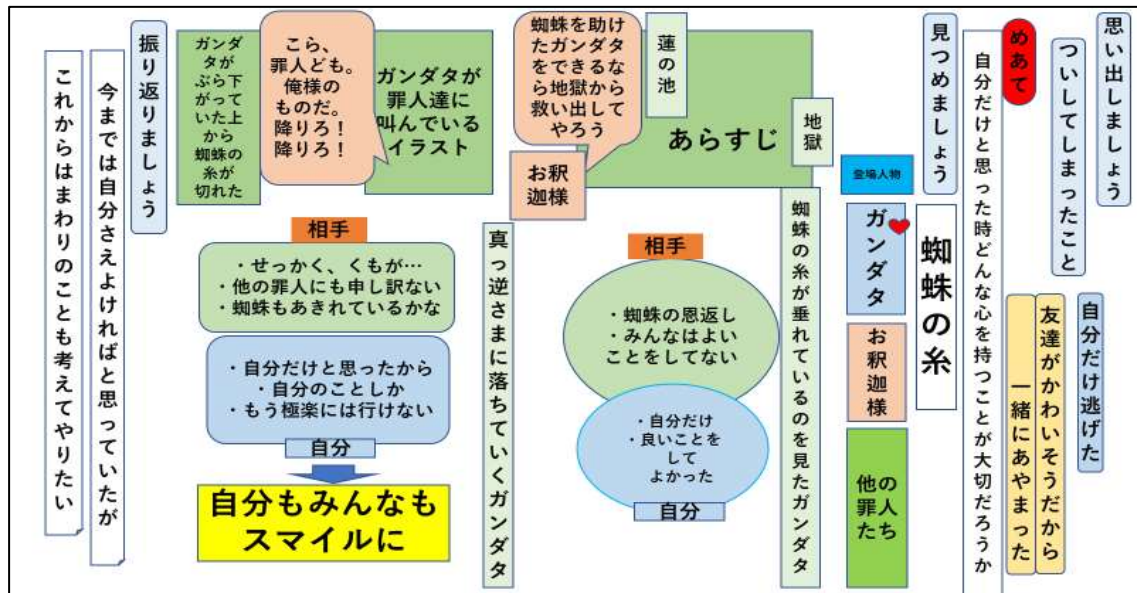
Aさんは当初蜘蛛の糸を「僕だけのものだ」と自分中心の考えからフリートークに参加していたが、Bさんとの会話を進めるうちに、考えが少しずつ変化し、「でも、自分だけでいいのかな？」と当初示した自分の考えに揺らぎが見え始め、自己中心的な考えに疑問を抱き始めていることがわかる。

このフリートークをさらに深化させるために、自分の考えや友達とのフリートークで深まった考え、さらにこの学習での学びを学習ノートに転記しやすいように、学習ノートと板書を対応させる工夫も行った。その板書例を示したのが図5であり、板書に対応した学習ノートの例を示したのが図6である。

板書と同じ形式の学習ノートを手元で活用することで、学習の流れや発問の意図を児童・生徒がくみ取りやすく、学習にも集中できることを考慮した。自省だけでなく、フリートークの議論によって多方面から心情を捉えることができ、それらの複合的な情報を学習ノートに記載し、手元に置くことで可視化され、より広く深く考えることにつながる。また、板書と対応した学習ノ

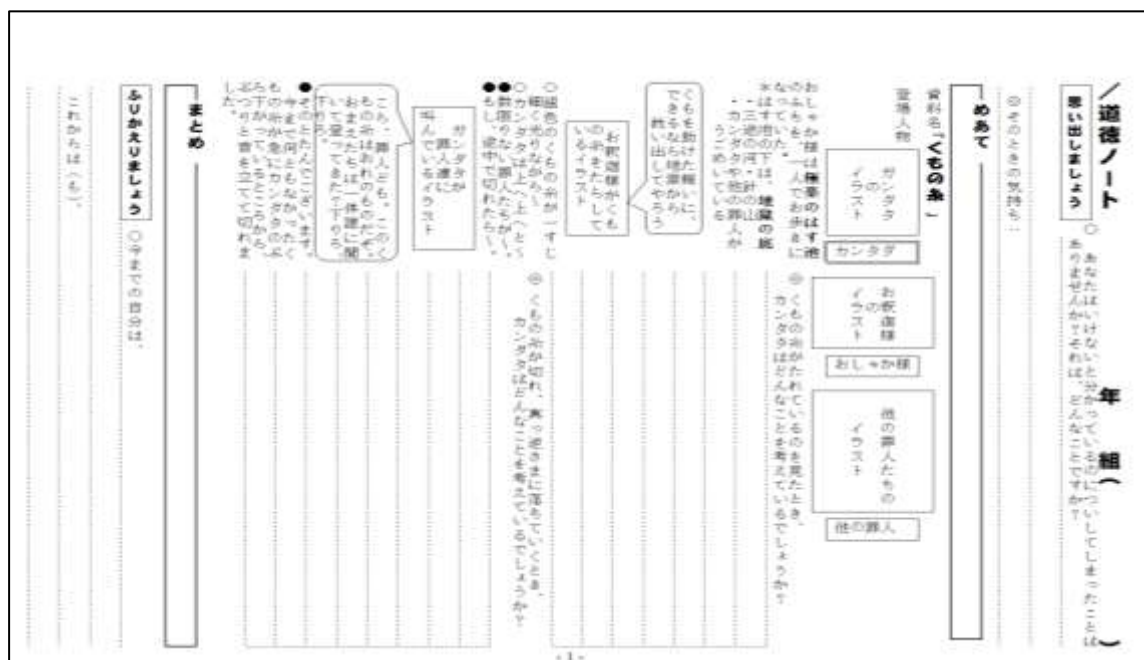
ートに自己の考えを書いていくという作業は単なる記録にとどまらず、自分の考えを整理し、フリートークの場面でも自分の考えを体験や根拠に基づいて相手に伝えたり、相手の考えを受け止め、取り入れたりすることが可能になる。また、板書と同じ形式の学習ノートを使うことにより、受動的な授業ではなく、能動的に主体性を持った学習への取り組みにもつながるものである。

図5 「蜘蛛の糸」の板書例



出所) 芥川龍之介／絵・遠山繁年 (1994)をもとに筆者作成

図6 板書に対応した学習ノート例



出所) 芥川龍之介／絵・遠山繁年 (1994)をもとに筆者作成

③ (授業事例3) 第6学年「誠実・明朗」－「手品師」－

前述の「蜘蛛の糸」は、善悪の視点に立った規範意識、共感力の育成を目的としたため、人間の持つ弱さを認識させることに重点を置いた教材であった。それをさらに発展させた次の段階の

教材として、江橋照雄著(2012)「4 手品師」を用いた。これは、どちらの選択をしても意味のある生き方であることを考えることができる教材である。そのため、フリートークが、重要なポイントとなり、協同的な学習が深まるものと考えた。「手品師」の指導案は、図7に示すとおりである。

図7 「手品師」の指導案

第6学年 道徳学習指導路案		指導者 馬場肇子 印
<b>主題名</b> 明るく生きる 1-(4) 誠実・明朗 <b>資料名</b> 手品師 <b>日時・場所</b> 平成 29 年 6 月 日 ( 校時 )   <b>配時</b> 1 / 1 時 <b>本時のねらい</b> ○ たどえ自分の人生のチャンスがきても、子どもとの約束が先にあり、子どもが楽しみにしているならば、チャンスを捨てても約束を大切に、誰に対してでも誠実に行動してていこうとする態度を育てる。		
学 習 の 展 開		配 慮 事 項
<b>前時</b> 1 資料「手品師」を読む。 2 学習ノートの「思い出しましょう」の欄に、友達との約束を守るとききの気持ちを書き。	1 自分の行動を振り返る。 ○約束を守ったこと ・文句を言われるから ・先に約束したから 2 学習のめあてをつかむ。 めあて 行動を決めるとき、どんな気持ちを持つことが大切かを考えよう。	○ 読書タイムや宿題等で4回以上読ませておく。 ○ 仲の良い友達や下級生との約束で、他に用事がきても約束を守った経験等自由に書かせておく。 ○ 資料を読んで、似たような経験があればそれも書かせておく。 ○ 私欲の気持ちと愛他や忠実の心に分けて、赤い気持ちと青い気持ち人間にはあることを知らせ、めあてにつなぐ。 ○ 「行動を決めるとき大切な心」を資料「手品師」で見つめていくことをおさえる。
<b>つくる</b> 3 資料「手品師」の主人公手品師の気持ちを考える。 ○教師の話で、あらすじをつかむ。 (1) 友人から評判のマジックショーに出ないか？と電話がかかってきたときの手品師の気持ちを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・先に約束したから [忠実]</p> <p>・男の子が待っている ・友人の思いやり [相手]</p> <p>・チャンスだ ・もう、これが最後かも ・夢がかなう [私欲]</p> </div> ○ この場面から、悩み、男の子との約束を守ることを決断し、実行するまでのあらすじをつかむ。 (2) 翌日、町の片隅でたった一人のお客様を前にして次々と手品を演じているときの手品師の気持ちを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・男の子への思い ・友人の有り難さ [相手]</p> <p>・今頃・・・ [私欲]</p> <p>・相手のことを考え、約束を守るうとする誠実さ [忠実]</p> </div> 4 本時学習のまとめをする。 まとめ 自分の夢も大切だが、他の人の夢や希望を大切に、誠実に行動したい。	○ 登場人物「手品師」「男の子」「友人」を確認し、「手品師」に寄り添って考えていくことを抑える。 ○ 板書をもとに、教師のあらすじで確認させる。 ○ 学習ノートに書かせ、机間指導しながら児童の書いていることを観点別に意味づけし、整理しておく。 ○ <b>考えを交流(フリートーク)する場を設定し、考えを広げたり、深めたりする。</b> ①3人(異性・同性・異性)と ②自分の考えA→相手の考えB→A' →B' ③「なるほど、それも分かるけど、…」 「やっぱり、…だよな。」 「それには、気づかなかったけど、…」 等の「つなぎ言葉」を使うよう示唆する。 ○ 発表を忠実、私欲、相手で分類しながら聞く。 ○ 児童の発表ででなかった時は、意図的指名をする。 ○ 挿絵を提示しながら、あらすじを教師の話で追う。 ○ 学習ノートに書かせ、机間指導しながら児童の書いていることを観点別に意味づけし、整理しておく。 ○ 児童の発表を、相手、忠実(価値)、私欲に分類してまとめる。 ○ 「約束だから。」という考えに、「このチャンスを逃したら、二度とチャンスは来ないかもしれないのに、約束を守る？」と切り返し、価値把握へつなぐ。 ○ 価値把握したことをもとに、児童の言葉に置き換えてまとめる。	
<b>生かす</b> 5 自分の生活を振り返る。 これまでの自分は、自分の都合で約束を断ることもあったが、これからは、相手にも自分にも誠実に行動したい。	○ 今日学習した価値からもう一度自分を見直し、どんな気持ちを持ちたいかを書かせる。	



「手品師」のストーリーは、主人公である売れない手品師が、ある日、家族にも恵まれない子供と出会い、自分の手品を喜んでくれ、翌日も会う約束をする。しかしその晩、友人から大劇場に出演する電話が入る。このチャンスを手にするためには、手品師は男の子との約束を反故にしなければならない。手品師は自分の夢と男の子との約束の狭間で悩みに悩んだ末、男の子との約束を守ることにした。自分の夢を叶えるチャンスを生かすか、男の子との約束を守るかという場面でフリートークを用いた。このフリートークのねらいは、生き方を問うものであり、どちらを選んでも間違いではない。だからこそ、フリートークによって各自が刺激され、主体的・対話的で深い学びにつなげることができるのである。この「手品師」で子供達が行ったフリートークの一例を示したのが図8である。

図8「手品師」のフリートークの一例

Cさん：私は、男の子との約束を破ったら、 <u>男の子が悲しむから</u> 、大劇場には行かない。
Dさん： <u>それも分かるけど、このチャンスを逃したら、もう夢が叶わないかもしれない。</u> <u>男の子には後で謝ればいいから、大劇場に行ったほうがいいと思う。</u>
Cさん： <u>後で謝っても、男の子は裏切られたと思って、もう誰も信じることができないかも知れないじゃない。</u>
Dさん：じゃ、 <u>男の子との約束の後、大劇場に行くのはどうかな？</u>
Cさん： <u>それじゃあ、大劇場には間に合わない。夢を叶えるのは、男の子との約束を守ったあと、きっとチャンスはまた来ると思う。</u>
Dさん：そうだなあ。男の子との約束の方が先だし、ね。
Cさん・Dさん：その方がすっきりするね、ありがとう。

注) 下線部筆者加筆

Cさんは、すぐに「男の子が悲しむから」と共感を示す発言をしている。それに対しDさんは、「それもわかるけど」とCさんの考えを受け入れながらも、「このチャンスを逃したら、夢が叶わないかも」と自分の意見を述べ、Cさんの気持ちを生かす方法として「男の子には後で謝ればいいから」と対策を示している。それに対して、Cさんは、「後で謝っても、男の子は裏切られたと思って、もう誰も信じることができないかも知れないじゃない」と、さらに深まりのある意見を述べている。そこで、Cさんの意見を受け入れたDさんは、「男の子との約束の後、大劇場に行くのはどうかな？」と新たな代案を示している。それに対してもCさんは、「それじゃあ大劇場の出場時刻に間に合わない」と現実的な理由を示し、自分の考えを強化している。その後二人は、人の信頼を裏切ることへの罪悪感を優先し、大劇場のチャンスは現在のチャンスではなく、「きっとチャンスはまた来ると思う」と長期的な考えでチャンスを捉えなおし、男の子との約束を果たそうとする手品師の気持ちにCさんもDさんも共感していく展開がみられた。他者から与えられた価値観ではなく、フリートークを行うことで対話的な学習となり、主人公の価値観を議論によって再認識し、自分たちの価値観として捉えなおしていることがわかる。互いの意見を多方面から考えていくことで深い学びが主体的に行われた姿が見られた一例である。

#### 4.まとめと今後の課題

##### (1) まとめ

道徳科の学習過程において、協同的な学びとしてフリートークを用いる場面は、道徳的価値について迷いや弱さが生じる場面を取り上げる方が、議論の活性化につながるものが3つの授業事例からわかった。また、フリートークを用いることで2つの効果が見られた。一つは、児童が主体的に考え、議論することで、より高い道徳的価値に気づくことにつながることである。もう一つは、フリートークを行うことで、相手の意見に対する気づきの中から共感を学んでいくことである。

この気づきと共感を深化させる授業方法として、板書に対応した学習ノートの活用が挙げられる。板書と対応した学習ノートが手元にあることで、自分の意見をその場で可視化し、それを根拠とした意見交換を効果的に行うことにつながり、児童の思考を広げ、議論の内容を捉え、自分で省察するという機能につながっていた

## (2) 今後の課題—「スタンダード道徳」構築に向けて—

道徳という教科の中で、共感力や相手を思いやる心を育成するためには、道徳的価値に迫る読み物の活用や、道徳的価値に関する課題解決的な学習、体験的な学習など、多様な指導方法を取り入れた授業を展開することが重要である。「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、自分とは異なる意見を持つ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える場を設定した授業を自由に構築できるところが道徳の良さである。

また、他者との合意形成や具体的な解決策を得ることのみが目的ではなく、多面的・多角的な思考を通じて、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めることができるのも道徳教育の特色である。

本稿では、共感的活用を中心とした授業の実践事例にとどまっていたが、今後は、批判的活用、感動的活用、範例的活用など、多様な授業開発の可能性も検討したい。道徳は教科としての歴史はまだ浅いが、それ故、さらなる発展が期待できる科目である。道徳教育のさらなる進化のためには、良い授業事例を集め、若手教員が活用しやすい道徳教育方法を「スタンダード道徳」として構築していくことも必要である。

## 参考文献

芥川龍之介／絵・遠山繁年(1994)『日本の童話名作選 蜘蛛の糸』借成社

江橋照雄／絵・武富まさえ(2012)「4 手品師」渡邊満・押谷由夫代表・「道徳」編集委員会編『道徳⑥—明日をめざして—福岡県版』東京書籍、pp.20-23

東京都生活文化局(2015)「平成26年度第6回インターネット都政モニターアンケート結果 家庭と地域で取り組む子供の健全育成」

<http://www.metro.tokyo.jp/INET/CHOUSA/2015/02/60p22100.htm> (2018年11月30日閲覧)

文部科学省(2015)「平成26年度『児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に自省する心：節度ある行動に関する調査』の一部見直しについて(依頼)」(平成27年8月17日)

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/seitoshidou/1400221.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1400221.htm) (2018年11月30日閲覧)

文部科学省(2017)平成28年度『児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査』(速報値)について(平成29年10月26日)、文部科学省初等中等教育局児童生徒

課

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/29/10/\\_icsFiles/afieldfile/2017/10/26/1397646\\_001.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/10/_icsFiles/afieldfile/2017/10/26/1397646_001.pdf) (2018年11月30日閲覧)

吉藤一郎／絵・竹下徳継 (2011) 「11 一ふみ十年」、渡邊満・押谷由夫代表・「道徳」編集委員会編 『道徳⑤－希望をもって－福岡県版』東京書籍、pp.46-49